

オンラインリレートーク「海外から見た日本考古学の魅力」全6回開催

国際遺跡研究室では2021年度にリレートーク・イベント「海外から見た日本考古学の魅力」を開催いたしました。2021年は新型コロナウイルス感染症拡大により、国内外での人的往来が困難な年となりました。「国際」を冠する我々研究室も海外に渡航できない状況での活動となりましたが、この状況を逆手に取り、海外からみた日本の文化財や考古学の魅力とは何かみつめ直したいと考えました。いっぽう、日本考古学を専門とする世界各地の研究者からは日本を懐かしみ、一刻も早い再訪を望む声を数多く聞きました。海外からみた日本考古学の魅力を考える上で、彼ら・彼女らはもっとも教えを乞うべき存在といえます。そこで誕生したのが本企画です。

リレートークは全6回開催し、12名の走者(発表者)が参加に名乗りをあげてくださいました。回を重ねるごとに参加希望者が増え、申込数800名を超える大盛況の中イベントを終了することができました。

12名の走者が強調していたのは、一緒に研究をしたいということ、そして日本考古学を海外に発信してほしいということです。海外で日本考古学を学ぶ機会は決して多くはありません。共同研究や情報発信を通じて、海外の研究者が日本考古学を知るチャンスをもっともっと作ってほしいということでした。

今回の企画は私たち日本人が日本考古学の魅力を再発見する良いきっかけとなったと思っています。その再発見した魅力を海外へ還元していくことが私たちの次なるミッションになりそうです。彼らが繋いでくれたバトンを次の世代に託すため、国際遺跡研究室はこれからも世界と日本を結ぶ活動を続けていきたいと思っています。

(企画調整部 庄田 慎矢・村上 夏希)



第6回リレートークの様子

軒瓦三次元計測データベースの公開

近年、考古第三研究室では、平城京・藤原京出土軒瓦をSfM-MVS(Structure from Motion and Multi-View Stereo)という技術で三次元計測することにより、軒瓦の詳細な情報を取得し、それを考古学的研究に応用するための研究を続けています。

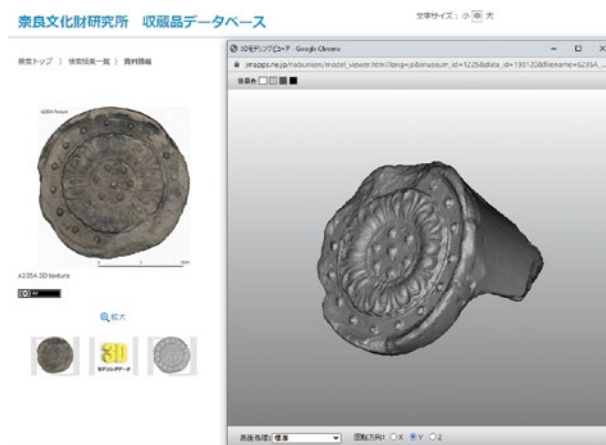
そしてこのたび、研究過程で取得した情報をもとに軒瓦三次元計測データベースを構築し、数ある平城京・藤原京出土軒瓦のうち、第一弾として奈良時代後半に製作された東大寺式軒瓦78点について、奈文研ホームページ上(<https://www.nabunken.go.jp/publication/>)に公開しました。

データベースでは、三次元計測による軒瓦の文様部分(=瓦当部)の画像と、出土品の全形について作成した三次元モデルの2種類を公開しています。

軒瓦の画像には、実物の色彩を表現したもの(Texture)と、純粹に形状だけを表現したもの(Surface)の2種類があります。三次元モデルは形状だけを表現したものを公開しており、ビューア上で自由に回転させることが可能ですので、様々な角度から軒瓦をご覧いただけます。解像度は粗くなりますが、拡大することも可能です。なお、三次元モデルは一部の型式のみの公開となっています。

このデータベースは随時公開数を増やしていく予定です。展示以外ではなかなかご覧いただく機会のない、実際に出土した軒瓦の詳細な状況を公開しておりますので、これを機会に、奈良時代の軒瓦について想いを馳せてみてください。

(都城発掘調査部 林 正憲)



軒瓦三次元計測データベース・トップページ